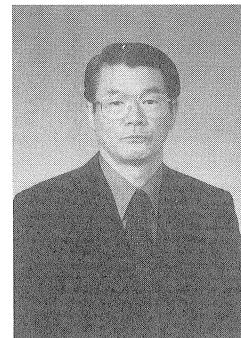


# 心新たに飛躍の年



## 教育課程の革新

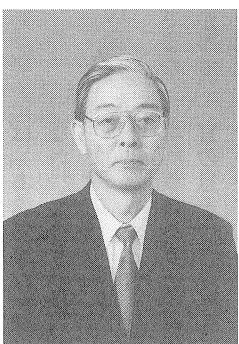
教頭 鈴木貞雄

激減し、父母の私学への経費負担も増すばかりで、学校と言えどもいかに生き抜くかの正念場にかかっているといつても過言ではありません。中途退学や不登校が社会問題になつてゐる昨今、「心の教育」を中心に、調和のとれた心豊かな人間教育をめざしていく所存であります。

平成十五年度入学生より高等学校全体の意気込みを感じていただけれどと思ひます。

を重点にします。  
必修教科として新たに「情報」  
が加わります。本校では一・二  
年生において、情報および情報  
技術を活用するための知識と技  
術の習得を通して、科学的な見  
方や考え方を養い、情報化の進  
展に主体的に対応できる能力と  
態度を養うことを目標に履修し  
ます。すでに平成六年度から情  
報処理実習室を開設し（二教室  
約一〇〇台）、理科・家庭科の  
授業に情報教育を盛り込み、基  
本的なリテラシー教育から、電

ともない校長職を退任し、四十一年間の長きにわたる教師生活に終止符を打つことにしました。思えば、一九九九年四月一日に就任。同年三月二十七日に野球部が開校五十年目にして甲子園というひのき舞台を初めて踏んだ記念すべき年でもありました。後日、某教諭から「よく校長を引き受けましたね」と言われた時は何と答えていいものか逡巡がありました。「あなたはその器ではないですよ」と言う意味で、「くせ（個性）の強いものか、「くせ（個性）」の強い



## 退職に際して

人達をまとめるのは大変ですね」と言つて同情してくれているのかすぐには読み取れませんでした。しかしながら船は港を出てしまつた。これも巡り合わせ、仏縁だと考え、何もしないで後悔するより、何かして後悔する方を選ぶことに決めてしまった。

であると言われていますが、実の問題となると、建前論になり、知育偏重（受験教育）になつたり、スポーツ過剰の弊導に進んでしまいます。どちらを選ぶにしても私学の特色であるが、従つて、本校のるべき道

在校生はもとより、同窓生が一  
体となって学校を運営していくか  
なければならない」（雨宮前駒  
大学長）のご発想であります。  
その為には、同窓会館建設が先  
ず必要です。同窓生の皆様が来  
校されてもゆっくり寛ぐ部屋も  
話し合いの場である相談室、研

私は四代校長、故上野校長の薰陶よろしきを得て、教育者としての本来のあるべき姿、厳格で豊かな教育觀と言うものを教え込まれた気がします。「何事にも徹するべし」、「人の振り直せ」、「故きを温めて新しきを知れば、以つて師と為るべし」、「李下に冠を正さず」等々。現在も綿々と続いているこれらの箴言（金言）についても心に残る先生の教訓を享受した同窓生も少なくないことでしょう。

従つて、本校のとるべき道は、開校以来日々の生徒の指導の任に幹には人間教育（宗教教育）があることを常に頭に入れて、何よりも学が学行に逆転するくらいの努力向上を目指し、付属進学校に相応しい進学率百パーセントを成第一主義を貫いて行くことで、その際、留意すべきことは多様化する進学希望にあつては駒志向のみを育てるのではなく、本人の能力を生かす個性尊重が重要であろう。同窓生の皆々が、力強いご激励と信頼、理解ともなうご協力を期待致すところです。

話し合いの場である相談室、研究室、修室もない状況です。二十一世紀初頭の事業の一環として是非近い将来実現してほしいと心から願うところです。

最後に、在職中は公私にわたり山より高く、海より深いご慈愛を頂戴致して、駒大高校での四十二年間の教壇生活を大病もなくほぼ皆勤の形で辞することがでありますことは偏に同窓生の皆々様の温かいご教導、ご鞭撻の賜と感謝申し上げ、同窓会のさらなる発展と隆盛を衷心よりお祈りしてお別れのご挨拶と致します（昭和三十六年十一月奉職以来莫語科教諭・平成十一年四月より）

子メールの取り扱い、ホームページの作成、インターネットによる索などを中心に授業展開がなされています。

の生き方を考えさせるための時間を作り、隔週土曜日に設定し、学習時間を設けます。

また土曜日の過ごし方を含め、学力の低下が指摘されています。本校では土曜日を基礎・基本の学習時間や発展的な学習時間に当て、生徒の一週間を通しての集中力をより一層高めていくことができるよう有効な時間割を編成します。

多くの卒業生がご存知の特別活動・部活動は心身の陶冶に欠かすことはできません。全国大会レベルまで達している部活動が増加しています。建学の精神のもと一丸となつて取り組んできたその成果と思つております。

平成七年度以降共学となり、想の学舎目指して我々教員益意気盛んであります。現在すべての学びの場に二上野慧賢先生の『調身 調息 調心』、もうひとつは行学の、得として、若林元典先生の『氣力を旺盛にし 集中力を高めよう 一二、目標を定め 日々時の努力を続けよう 三一、自らを信じ 自らを厳しく律しよう 一二、師友を敬愛し 札儀を正しく、よう』。すばらしい精神を教活動の指針として今後も日々努力精進してまいります。私は「教えることは共に希を語ることである」と考えま

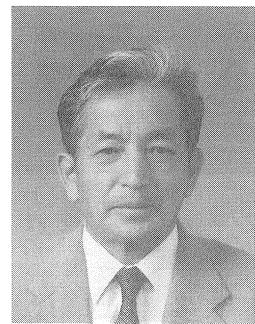
創立五十五周年準備委員会報告
同窓会は平成十七年に創立五十五周年を迎えます。記念総会・式典の日時・場所等の概要が決定しました。
日時
平成十七年六月十一日
(土曜日)
午後四時より
場所
母校・各施設にて
会費
無料

子メールの取り扱い、ホームページの作成、インターネットソーシャルネットワーキングサービス(SNS)などを中心とした授業展開がなされています。

平成七年度以降共学となり、想の学舎目指して我々教員益意気盛んであります。

同窓生の皆様方の忌憚なきご意見を頂き、今後ともよろしくお願い致します。 (顧問・理科)

# 「退職に際して」 教諭 松本 修



早いもので駒澤大学高等学  
校にお世話になって三十九年  
という歳月が流れました。人生  
の大半を曹洞宗梅檀林に発  
祥の原点がある校風や伝統の  
ある学校に勤務できたことを  
深く感謝の意を表する次第です。

さて、三十九年前計らずも  
教師として職を得て、さまざま  
な学生と出会い暗中模索の  
新鮮な毎日であった。赴任し  
てすぐ週二十四時間の授業、  
六十七名のクラス担任、卓球  
部顧問、最初の一年間で三名  
退学、同数の転入生、文字通  
り慌ただしい毎日であった。  
しかしその当時の学生が最も  
印象に残っている。なかでも  
九州からの粗暴な転校生、の  
ちに心中事件を起こし短い生  
涯を閉じた学生のことを忘れ  
ることができない。部活では、  
新潟県堀ノ内町での合宿、夏  
は猛烈に暑く、冬は豪雪、こ  
の地の廃校になつた小学校を  
借りての合宿も記憶に鮮明で  
ある。ゴルフ部の顧問として  
の山梨県南部の富士ロイヤル  
C・Cでの出来事を思い出す。  
初心者が打つたボールが斜め  
前にいた部員の側頭部を直撃、  
救急車を要請、富士宮市の脳  
外科でのCTスキャン等の検  
査をうけるが、意識もはつき  
りしているから休ませれば大  
丈夫との診断。しかし連れ帰  
るのを躊躇していると、その

医師曰く「一晩様子を診るか」  
と言、お願いすることにし、  
三時間に及ぶ手術を受け一命  
をとりとめることができた。  
あの時医師の一言がなかった  
ら現在の自分はなかつたであ  
る。忘れ難い出来事であった。

その彼は今では実業家として  
りつぱに成功し、東京国際の  
クラチャンになるほどゴルフ  
の腕も上達し、OB会で再会  
したときとても歯がたつ相手  
ではなかつた。

私はゴルフの腕の方はいつ  
こうに上達しないが、奥が深  
事ではあるが子供達も自立し、  
これからは老妻と共に悠々自  
適の生活を送りたいと思う心  
境である。

(昭和三十九年四月奉職以来)

英語科教諭として活躍され  
た。)

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

ですから、五十五歳になつ  
て見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会つた柔  
道部の生徒の死という問題か  
らです。

これまで、漠然とでしたが、  
早期退職をしたい思いは四十  
歳代のころからありました。

それは本当に漠然としていて、  
自分が喜怒哀樂を元気に生徒  
達にぶつけられる五十五歳ぐ  
らいに退職し、その元気さを

見ると預貯金もない退職後  
の生活はどうするのか、柔道

受けていませんでした。

教諭 坪井 久

退職を考えていた私を真に  
決意させてくれたのは昨年(平  
成十四年)の夏に出会







# クラス会・OB会・OG会

## 男子バスケットボール部

七月二十七日(土) 母校・

体育館、用賀「どんちゃんかん」

OB会は七月の第四土曜日

に毎年行っています。本年は、

高校生と練習ゲームで汗を流

し、現役との交流を深めまし

た。その後、用賀の「どんち

んかん」というお店で懇親会

を行いました。本年は、

高校生と練習ゲームで汗を流

本亮太、三位、藤崎達也とな  
りました。

円卓を囲み二十数年振りに  
顔を会わせあちこちで出てき  
た言葉は、「久し振り・元気  
でやつて・太つたな・老け  
たな」などなどだつたよう  
に思われます。

始まりはごく一般的でした  
が、先生を聞んでの二時間は  
楽しき会話と賑わいの中あつ  
た。

という間に過ぎ、仲間にとつ  
て僅かすぎる時間だつたよう  
に思われました。勿論この後  
二次会があり盛大に盛り上が  
つたことは言うまでもあります。

泊り掛けでのクラス会を開催  
してから十年が経ち、四十歳  
になる今年、十一年連続で恒  
例のクラス会を開催しました。

毎年秋深まるこの頃、温泉  
に入り、酒を酌み交わしながら、  
毎年同じ話で盛り上がる。

頭に白いものが目立つ者や薄  
くなつてゐる者、シワが増え  
た者、ここに集まるとみんな  
代に逆戻りして大騒ぎします。

学生時代、厳しく指導してい  
ただいた宮先生と、親しくお  
酒を飲めるようになつたこと  
を幸せに思う長い一夜です。

十一年も連続で開催してい  
るところ、話だけで終わつてしま  
うことが多くあります。そ  
れで、どの程度の人達が集まつ  
てくれるのだろうと心配でし  
た。そして当日の集合時間に  
集まつたのはたつた五人でど  
うなることだらうかと思いま  
したが、結果的にはクラスの  
約半数の参加となりました。

皆、お互いに近況を報告しあ  
る者もいれば、先生と同じく  
りと語らう者もいたりと、そ  
れぞれに楽しい時を過ごして  
くれたようです。とても良い  
クラス会になつたと同時にE  
組らしく始まり、E組らしく  
終わつたクラス会であつたと  
おもいます。

詳細や申込は同窓会事務局  
までご連絡下さい。

多数のご利用をお待ちして  
います。

総会においては、今後のO  
B会運営のあり方を協議し、  
実りある議論ができたと思  
います。その後、懇親会に移り、  
残念ながら中止となりまし  
た。

OB会運営のあり方を協議し、  
実りある議論ができたと思  
います。その後、懇親会に移り、  
残念ながら中止となりまし  
た。

OB諸先輩の激励が、我々柔  
道部員に初心を思い起こし、  
柔道部の団結と、さらなる躍  
進を心へ誓ういましめの言葉  
となつた。

クラス会・OB会・OG会の幹事の方へ

同窓会では同窓生の親睦・交流を目的に、クラス会やOB・OG会の開催に一万元の助成金を支出しています。

詳細や申込は同窓会事務局までご連絡下さい。

多数のご利用をお待ちして

います。

OB諸先輩の激励が、我々柔道部員に初心を思い起こし、柔道部の団結と、さらなる躍進を心へ誓ういましめの言葉となつた。

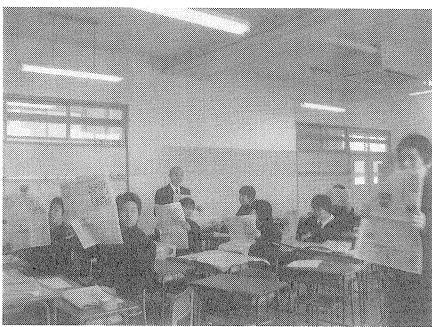




土曜

# 「新聞を楽しむ」 万緑叢中紅一点

教諭 横山 汪



たことはない。間口と心は広く開けて待ち受けているので、駆け込み寺的役割もあって、事情による途中転向者もある。

新報道された現場探訪。

これも小回りをきかせた活動の一端だ。本校の回りには文化財がゴロゴロある。二つ目の路地には個人の所有だが洒落たギャラリー。世田谷の代官屋敷とその資料館では、芸員の解説に耳傾け、その通りで立つボロ市に遭遇すれば、見学しつつ串焼きの肉を頬ばねる茅葺き古民家の囲炉裏で入れた茶をすすり、古老人の話をうかがうのも定番だ。他に、砧の世田谷美術館は、始まりで知られる。最近では桜新町にある、漫画サザエさんの作者長谷川町子の美術館で、彼女の審美眼による収集絵画を鑑賞した。受講生が五、六名の時は、筆者の自家用車を駆使する。池袋消防署の防災センターにでかけ、消火器の使い方や人工呼吸法の訓練も実習した。以上、代表的な事例をあげたが、いずれも二時間の制限時間内にできる内容だ。こうしてみると他方面にわたり可能性が拡大していく。

○現場探訪

感性は千差万別。「マスコミは「なんたる面倒、やつてらんないよ」と。だが、点数からめば境地はあきらめへと進化し、「結構おもしろいじゃん」となればしめたもの。

感想の最後は「やつてよかつた。ちょっとびり大人の気分」などとなる。まれに、「ふん、こんなこと前からやつてた」とうそぶく猛者（もさ）はあるが、成果を実感するのが一般的だ。担当者のうれしさもの辺にある。一方近ごろ気になることがある。

○不人気No.1!

しかし、受講生は十五名を越えたことがない。講座内容が、スクランプしたり、せいぜいクロスワードがディスカッションなどと地味めだから、希望者の多からうはずがない。パソコン教室などの人気講座ばかりに、あまたの希望者を振り落としている訳では決してない。選択四候補の一つにあげれば合格必至。なにやら心もとなない風情だが、幸いにも希望者ゼロで開講不能に陥つ

◎成果あり

とは見え、新聞を読み、記事を集める作業が中心である。各自の興味・関心のおもむくまま。あるいは将来の進路にそつた意図的収集をやってく間を通じ、毎日スクラップ一件以上を強制された受講生の心情はいかばかりか。はじめは「なんたる面倒、やつてらんないよ」と。だが、点数からめば境地はあきらめへと進化し、「結構おもしろいじゃん」となればしめたもの。

感想の最後は「やつてよかつた。ちょっとびり大人の気分」などとなる。まれに、「ふん、こんなこと前からやつてた」とうそぶく猛者（もさ）はあるが、成果を実感するのが一般的だ。担当者のうれしさもの辺にある。一方近ごろ気になることがある。

○本講座に毎日新聞社の全面支援

右は筆者の新聞に対するスケルプトとあつた。悪辣非道な松本サリン事件で、第一通報者の河野さんを、真犯人

◎信頼しても信じ切る事なかれ

は、少人数講座だからこそ事情による途中転向者もある。

新報道された現場探訪。

これも小回りをきかせた活動の一端だ。本校の回りには文

化財がゴロゴロある。二つ目の路地には個人の所有だが洒落たギャラリー。世田谷の代官屋敷とその資料館では、芸員の解説に耳傾け、その通りで立つボロ市に遭遇すれば、見学しつつ串焼きの肉を頬ばねる茅葺き古民家の囲炉裏で入れた茶をすすり、古老人の話をうかがうのも定番だ。他に、砧の世田谷美術館は、始まりで知られる。最近では桜新町にある、漫画サザエさんの作者長谷川町子の美術館で、彼女の審美眼による収集絵画を鑑賞した。受講生が五、六名の時は、筆者の自家用車を駆使する。池袋消防署の防災センターにでかけ、消火器の使い方や人工呼吸法の訓練も実習した。以上、代表的な事例をあげたが、いずれも二時間の制限時間内にできる内容だ。こうしてみると他方面にわたり可能性が拡大していく。

○NIE資料一七〇〇号

O B · O G 諸氏におかれましては「新聞」をお楽しみで

おられましようや。一九八六年四月のチエルノブリ原発

事故紹介のスクラップを始ま

りとするNIE資料（当初は世界史資料）通称「おみやげ」の発行が一七〇〇回を越え、その間およそ三〇〇〇名の皆さんが目をとおしてくれた計

算になります。

筆者は相も変わらず日々新聞讀けです。新年一月十三日付

け東京新聞に黒甘納豆「ゴ

リラの鼻クソ」なる記事が載りました。上野動物園の前の

売店、全国の動物園では園内で発売中の由。これから買いたいとする例ではある。

○NIE資料一七〇〇号

O B · O G 諸氏におかれましては「新聞」をお楽しみで

おられましようや。一九八六年四月のチエルノブリ原発

事故紹介のスクラップを始ま

りとするNIE資料（当初は世界史資料）通称「おみやげ」の発行が一七〇〇回を越え、その間およそ三〇〇〇名の皆

さんが目をとおしてくれた計

算になります。

筆者は相も変わらず日々新聞讀けです。新年一月十三日付

け東京新聞に黒甘納豆「ゴ

リラの鼻クソ」なる記事が載

りました。上野動物園の前の

売店、全国の動物園では園内で発売中の由。これから買いたいとする例ではある。

○NIE資料一七〇〇号

O B · O G 諸氏におかれましては「新聞」をお楽しみで

おられましようや。一九八六年四月のチエルノブリ原発

事故紹介のスクラップを始ま

りとするNIE資料（当初は世界史

資料）通称「おみやげ」の発行が一七〇〇回を越え、その間およそ三〇〇〇名の皆

さんが目をとおしてくれた計

算になります。

筆者は相も変わらず日々新聞讀けです。新年一月十三日付

け東京新聞に黒甘納豆「ゴ

リラの鼻クソ」なる記事が載

りました。上野動物園の前の

売店、全国の動物園では園内で発売中の由。これから買いたいとする例ではある。

○NIE資料一七〇〇号

O B · O G 諸氏におかれましては「新聞」をお楽しみで

おられましようや。一九八六年四月のチエルノブリ原発

事故紹介のスクラップを始ま

りとするNIE資料（当初は世界史

資料）通称「おみやげ」の発行が一七〇〇回を越え、その間およそ三〇〇〇名の皆

さんが目をとおしてくれた計

算になります。

筆者は相も変わらず日々新聞讀けです。新年一月十三日付

け東京新聞に黒甘納豆「ゴ

リラの鼻クソ」なる記事が載

りました。上野動物園の前の

売店、全国の動物園では園内で発売中の由。これから買いたいとする例ではある。

○NIE資料一七〇〇号

O B · O G 諸氏におかれましては「新聞」をお楽しみで

おられましようや。一九八六年四月のチエルノブリ原発

事故紹介のスクラップを始ま

りとするNIE資料（当初は世界史

資料）通称「おみやげ」の発行が一七〇〇回を越え、その間およそ三〇〇〇名の皆

さんが目をとおしてくれた計

算になります。

筆者は相も変わらず日々新聞讀けです。新年一月十三日付

け東京新聞に黒甘納豆「ゴ

リラの鼻クソ」なる記事が載

りました。上野動物園の前の

売店、全国の動物園では園内で発売中の由。これから買いたいとする例ではある。

○NIE資料一七〇〇号

O B · O G 諸氏におかれましては「新聞」をお楽しみで

おられましようや。一九八六年四月のチエルノブリ原発

事故紹介のスクラップを始ま

りとするNIE資料（当初は世界史

資料）通称「おみやげ」の発行が一七〇〇回を越え、その間およそ三〇〇〇名の皆

さんが目をとおしてくれた計

算になります。

筆者は相も変わらず日々新聞讀けです。新年一月十三日付

け東京新聞に黒甘納豆「ゴ

リラの鼻クソ」なる記事が載

りました。上野動物園の前の

売店、全国の動物園では園内で発売中の由。これから買いたいとする例ではある。

○NIE資料一七〇〇号

O B · O G 諸氏におかれましては「新聞」をお楽しみで

おられましようや。一九八六年四月のチエルノブリ原発

事故紹介のスクラップを始ま

りとするNIE資料（当初は世界史

資料）通称「おみやげ」の発行が一七〇〇回を越え、その間およそ三〇〇〇名の皆

さんが目をとおしてくれた計

算になります。

筆者は相も変わらず日々新聞讀けです。新年一月十三日付

け東京新聞に黒甘納豆「ゴ

リラの鼻クソ」なる記事が載

りました。上野動物園の前の

売店、全国の動物園では園内で発売中の由。これから買いたいとする例ではある。

○NIE資料一七〇〇号

O B · O G 諸氏におかれましては「新聞」をお楽しみで

おられましようや。一九八六年四月のチエルノブリ原発

事故紹介のスクラップを始ま

りとするNIE資料（当初は世界史

資料）通称「おみやげ」の発行が一七〇〇回を越え、その間およそ三〇〇〇名の皆

さんが目をとおしてくれた計

算になります。

筆者は相も変わらず日々新聞讀けです。新年一月十三日付

け東京新聞に黒甘納豆「ゴ

リラの鼻クソ」なる記事が載

りました。上野動物園の前の

売店、全国の動物園では園内で発売中の由。これから買いたいとする例ではある。

○NIE資料一七〇〇号

O B · O G 諸氏におかれましては「新聞」をお楽しみで

おられましようや。一九八六年四月のチエルノブリ原発

事故紹介のスクラップを始ま

りとするNIE資料（当初は世界史

資料）通称「おみやげ」の発行が一七〇〇回を越え、その間およそ三〇〇〇名の皆

さんが目をとおしてくれた計

算になります。

筆者は相も変わらず日々新聞讀けです。新年一月十三日付

け東京新聞に黒甘納豆「ゴ

リラの鼻クソ」なる記事が載

りました。上野動物園の前の

売店、全国の動物園では園内で発売中の由。これから買いたいとする例ではある。

○NIE資料一七〇〇号

O B · O G 諸氏におかれましては「新聞」をお楽しみで

おられましようや。一九八六年四月のチエルノブリ原発

事故紹介のスクラップを始ま

りとするNIE資料（当初は世界史

資料）通称「おみやげ」の発行が一七〇〇回を越え、その間およそ三〇〇〇名の皆

さんが目をとおしてくれた計

算になります。

筆者は相も変わらず日々新聞讀けです。新年一月十三日付

け東京新聞に黒甘納豆「ゴ

リラの鼻クソ」なる記事が載

りました。上野動物園の前の

売店、全国の動物園では園内で発売中の由。これから買いたいとする例ではある。

○NIE資料一七〇〇号

O B · O G 諸氏におかれましては「新聞」をお楽しみで

おられましようや。一九八六年四月のチエルノブリ原発

事故紹介のスクラップを始ま

りとするNIE資料（当初は世界史

資料）通称「おみやげ」の発行が一七〇〇回を越え、その間およそ三〇〇〇名の皆

さんが目をとおしてくれた計

算になります。</

# 美術部の一年

教諭 久保田 実

絵を描き始めると、みんな寂黙に一人になる。線や面が形となるまで、格闘が続く。うになるまで、存在感を持つようになるまで、格闘が続く。

一人一人が美術室でキャンパ

スに向かう。一人一人の世界

がその周辺に漂う。心地よい緊張感が美術室に広がる。活動開始時間は午後三時半。

木曜と金曜日の放課後にみんなが集まって、しばしの談笑の後、それぞれが、それぞれの場所で、それぞれの世界に浸る。自由にして豊か、ほのぼのとしていて厳しい、みんなでいながら一人。線が遊ぶ、面が揺れる、色が跳ねる。二

時間が過ぎると、そろそろ帰

り支度が始まる。再び、しば

しの談笑の末、二人や三人連

れになって帰り始める。「お

っ先～！」「じゃつね～！」。これが普段の部活動。

一学期も終わりに近づくと、合宿の検討。温泉がいい。海

がいい。山がいい。どこでも

がいい。それぞれの期待が膨ら

んだところで、顧問の先生が

一気に決着。「今年の合宿地

は、伊豆の戸田村。見学は長

八美術館。以上」。合宿地

は、固定していない。選定の

基本は、絵を描く素材・景色

がよい場所で、近くに美術館

か陶芸やガラス工芸などの体

験学習ができるような場所を

選んでいる。十四年度の伊豆

の戸田村は、例年卓球部が合

宿に使っている場所で、海と

山の景色がすばらしい場所で

あつた。そして見学場所に選

んだ長八美術館では漆喰を

使つて浮き彫りの作品を作る

体験学習をした。鎧をここで

てこねくり回して小さな浮き彫りの作品を作つた。とても貴重な体験であつた。

九月になると、駒大高祭の準備。夏の思い出を、合宿の写真を組合わせて想を練る人。

粘土をこねる人。それでの発想が豊かに膨らみ、ゆつたりと時間が過ぎる。十月に入ると急に時間が襲つてくる。

「完成しないよ。」「間に合わないよ。」「時間がな

いよ。」例年の如し。それでもちゃんと駒大高祭。

二階の真中あたりの教室が、駒大高美術館に変身。美しい風景画あり、愁いに沈む人物画あり、POPなデザイン、シュールな幻想あり、美術部の自由で豊かな活動の成果が魅力

の駒大高美術館。加えて受け付け嬢の笑顔が魅力です。

楽しい駒大高祭が、二日目の午後三時に突如喧騒に包まられる。ガンガン、バンバン、ドケドケ、バタバタ。大きな

重い掲示用ボードを倉庫に運ぶ。重い重いと言ひながら、美術部の女子は逞しい。五時頃には片付け終了。一人一人反省の弁。「はい、先輩の絵が好評でした。」「・・・今は、変なおじさんは来ませんでした。おわり。」

駒大高祭が終わると、十二月の第八支部連合美術展出品

作品の準備が始まつた。校外の美術展の出品は、この連合美

術展が恒例となつてゐる。毎年ほとんどの部員が作品を出

品する。展示会場は世田谷美

術館である。時期は十二月月末か、一月上旬である。今年も十六作品を出品した。世田谷を中心とした私立中学・高校の約三十校が参加しての美術展である。今年の受賞は、

金賞が三年F組の茂田美希さ

（国語・美術部顧問）

も六作品を出品した。世田

谷二月二十二日に表彰式。こ

れで今年も暮れていく。以上

美術部の一年でした。

## 会費・寄付金納入者芳名

平成十四年一月末日から平成十四年十一月五日までに納入された方々です。今回も複数年度分納入された方がいらっしゃいますが、詳細は省略

させていただきます。

会費納入者（敬称略）

〔十五期〕 松山克雄・鈴木洋・北原靖樹・前田雅信・清野幸俊・宮田利徳・金田秀樹

〔二十六期〕 吉水禪雄・松崎剛・金持健司・福島徹・川井康明・入澤忠義・宮路典行

〔二十七期〕 田崎博識・白小林均

〔二十八期〕 前田重賢・三内田義一

〔二十九期〕 小林敏夫・飯沼正臣

〔三十期〕 間瀬文治・長瀬島秀剛・川上修詮・木原実

〔三十一期〕 東和人・島田伸一郎・梅木久生・岡部武・高橋清一

〔三十二期〕 藤田浩彦・藤崎達也・北見英之・遠藤広一

〔三十三期〕 猪俣裕之・井上誠二・今井誠司・鈴木篤義宣・持田文雄

〔三十四期〕 大崎泰輝・池田勝美

〔三十五期〕 吉田正幸・須藤昭・渡邊嘉孝

〔三十六期〕 内藤賢二・野村陽一・秋山研・久野雅晃・杉山孝

〔三十七期〕 遠藤新志・猪

〔三十八期〕 山崎貴裕・市川智之・山辺和明

〔三十九期〕 坂本隆行・志村哲・岡田実智穂・勝山憲和

〔四十期〕 松本一郎

〔四十一期〕 田中隆道・吉津賢秀・田和夫・森吉仁・広瀬昭博・千谷眞市・水野博文・菊地善彦

〔四十二期〕 志田英郎・吉田和・森吉仁・廣瀬昭博・千谷眞市・水野博文・菊地善彦

〔四十三期〕 原田寿一・松田雅樹・北晴久・大瀧祐賢・進士徹・須貝敏弘・鄭友治・大原武司・渡会元紹・浜崎保彦

〔四十四期〕 山下大彦・市原英典・中雄

〔四十五期〕 梅原政彦・梅原政彦

〔四十六期〕 白石勇樹・水野史彦・桑原亮太郎

〔四十七期〕 平井寛章・木村修

〔四十八期〕 善浪邦元・長山靖・牧野高子・近沢祥輝・伊藤清興・大村慎太郎・西脇丈太郎・市原武史

〔四十九期〕 織田澤智幸・山浦学・達川陽一・荒木秀元

〔五十期〕 中村公・大平浩平・松浦英修・菊池栄春・山村小野真弘・佐田心平

〔五十一期〕 勝川孝一・上平・下道多・梶浦光顯・渡邊賢・平井真理・種田俊行

〔五十二期〕 勝川孝一・上平・下道多・梶浦光顯・渡邊賢・平井真理・種田俊行

年の油絵「紅葉」と、銀賞が三年G組の吉田智美さんの油絵「民宿角屋前」であつた。

三年G組の吉田智美さんの油絵「民宿角屋前」であつた。

海老保・増田隆保

〔二十四期〕 志田英郎・吉田和・森吉仁・廣瀬昭博・千谷眞市・水野博文・菊地善彦

〔二十六期〕 吉水禪雄・松崎剛・金持健司・福島徹・川井康明・入澤忠義・宮路典行

〔二十七期〕 田崎博識・白小林均

〔二十八期〕 前田重賢・三内田義一

〔二十九期〕 小林敏夫・飯沼正臣

〔三十期〕 間瀬文治・長瀬島秀剛・川上修詮・木原実

〔三十一期〕 東和人・島田伸一郎・梅木久生・岡部武・高橋清一

〔三十二期〕 藤田浩彦・藤崎達也・北見英之・遠藤広一

〔三十三期〕 猪俣裕之・井上誠二・今井誠司・鈴木篤義宣・持田文雄

〔三十四期〕 大崎泰輝・池田勝美

〔三十五期〕 吉田正幸・須藤昭・渡邊嘉孝

〔三十六期〕 内藤賢二・野村陽一・秋山研・久野雅晃・杉山孝

〔三十七期〕 遠藤新志・猪

〔三十八期〕 山崎貴裕・市川智之・山辺和明

〔三十九期〕 坂本隆行・志村哲・岡田実智穂・勝山憲和

〔四十期〕 松本一郎

〔四十一期〕 田中隆道・吉津賢秀・田和夫・森吉仁・廣瀬昭博・千谷眞市・水野博文・菊地善彦

〔四十二期〕 志田英郎・吉田和・森吉仁・廣瀬昭博・千谷眞市・水野博文・菊地善彦

〔四十三期〕 原田寿一・松田雅樹・北晴久・大瀧祐賢・進士徹・須貝敏弘・鄭友治・大原武司・渡会元紹・浜崎保彦

〔四十四期〕 山下大彦・市原英典・中雄

〔四十五期〕 梅原政彦・梅原政彦

〔四十六期〕 白石勇樹・水野史彦・桑原亮太郎

〔四十七期〕 平井寛章・木村修

〔四十八期〕 善浪邦元・長山靖・牧野高子・近沢祥輝・伊藤清興・大村慎太郎・西脇丈太郎・市原武史

〔四十九期〕 織田澤智幸・山浦学・達川陽一・荒木秀元

〔五十期〕 中村公・大平浩平・松浦英修・菊池栄春・山村小野真弘・佐田心平

〔五十一期〕 勝川孝一・上平・下道多・梶浦光顯・渡邊賢・平井真理・種田俊行

〔五十二期〕 勝川孝一・上平・下道多・梶浦光顯・渡邊賢・平井真理・種田俊行

〔五十三期〕 猪俣裕之・井上誠二・今井誠司・鈴木篤義宣・持田文雄

〔五十四期〕 大崎泰輝・池田勝美

〔五十五期〕 吉田正幸・須藤昭・渡邊嘉孝

〔五十六期〕 内藤賢二・野村陽一・秋山研・久野雅晃・杉山孝

〔五十七期〕 遠藤新志・猪

〔五十八期〕 山崎貴裕・市川智之・山辺和明

〔五十九期〕 坂本隆行・志村哲・岡田実智穂・勝山憲和

〔六十期〕 松本一郎

〔四十一期〕 尚志・内山隆博

〔四十二期〕 原田寿一・松田雅樹・北晴久・大瀧祐賢・進士徹・須貝敏弘・鄭友治・大原武司・渡会元紹・浜崎保彦

〔四十三期〕 田中勝也・田和夫・森吉仁・廣瀬昭博・千谷眞市・水野博文・菊地善彦

〔四十四期〕 山下大彦・市原英典・中雄

〔四十五期〕 梅原政彦・梅原政彦

〔四十六期〕 小柳智海・五味伸浩・長内功一朗・松山元雄

〔四十七期〕 善浪邦元・長山勝也・田中勝也

〔四十八期〕 稲葉正臣・中村修

〔四十九期〕 岩田英一・中村修

〔五十期〕 田中勝也・中村修

〔五十一期〕 岩田英一・中村修

〔五十二期〕 岩田英一・中村修

〔五十三期〕 岩田英一・中村修

〔五十四期〕 岩田英一・中村修

〔五十五期〕 岩田英一・中村修

〔五十六期〕 岩田英一・中村修

〔五十七期〕 岩田英一・中村修

〔五十八期〕 岩田英一・中村修

〔五十九期〕 岩田英一・中村修

〔六十期〕 岩田英一・中村修

〔六十一期〕 岩田英一・中村修

〔六十二期〕 岩田英一・中村修

〔六十三期〕 岩田英一・中村修

〔六十四期〕 岩田英一・中村修

〔六十五期〕 岩田英一・中村修

〔六十六期〕 岩田英一・中村修

〔六十七期〕 岩田英一・中村修

〔六十八期〕 岩田英一・中村修

〔六十九期〕 岩田英一・中村修

〔七十期〕 岩田英一・中村修

〔七十一期〕 岩田英一・中村修

〔七十二期〕 岩田英一・中村修

〔七十三期〕 岩田英一・中村修

〔七十四期〕 岩田英一・中村修

〔七十五期〕 岩田英一・中村修

〔七十六期〕 岩田英一・中村修

〔七十七期〕 岩田英一・中村修